

子育てに関する 行政制度及び行政サービスについて

第9回 「子ども・子育て支援新制度」

平成 24 年 8 月に成立した「子ども・子育て支援法」に基づき、平成 27 年度より「子ども・子育て支援新制度」が本格施行されます。地域の子育て支援の量や質の向上を図るための制度、実際には新しい制度により何が変わらのか、解説していきます。



「認定子ども園」の普及と「地域型保育」の新設

認定こども園

教育と保育を一体的に行う 対象: 0 歳～5 歳

● 幼稚園と保育園の機能や特長をあわせ持ち、地域の子育ても行う施設。

ポイント① 保護者の働いている状況に関わり無く、3歳～5歳のどのお子さんも、教育・保育と一緒に受けます。

ポイント② 保護者が働くなくなったなど、就労状況が変わった場合も、通いなれた園を継続して利用できます。

ポイント③ 子育て支援の場が用意されていて、園に通っていないご家庭も、子育て相談や親子の交流の場などに参加できます。

■幼稚園・保育園も継続■

新制度により、認定こども園の普及が図られます。従来の幼稚園、保育園も継続して運営されます。利用状況も従来どおりで、幼稚園は3歳～5歳を対象に、保育園は園によりますが0歳～5歳が対象となります。

地域型保育

少人数単位で子どもを預かる事業 対象: 0 歳～2 歳

● 保育施設を新設する場所のない都市部に加え、子どもが減少している地方など、地域の様々な状況に合わせた保育。

タイプ① 家庭内保育(保育ママ) 家庭的な雰囲気のもとで5人以下のきめ細やかな保育を保育者の自宅で行う。

タイプ② 小規模保育 6人から19人の定員で、家庭内保育に近い雰囲気のもと、保育を行う。

タイプ③ 事業所内保育 事業所の保育施設などで、従業員の子どもと地域の子どもと一緒に保育を行う。

タイプ④ 居宅訪問型保育 障害・疾患などで個別のケアが必要な場合や、施設が無くなった地域で保育を維持する必要がある場合、保護者の自宅において1対1で保育を行う。

■地域型保育は2歳まで■

0歳から2歳までの保育施設不足に対応するために、地域型保育の整備が図られます。実際にどのような事業が提供されるかは、市町村によって異なります。また、2歳までであることがポイントで、例えば、小規模保育に入園した場合、3歳の誕生日以降は、連携した保育園、幼稚園、認定子ども園へ転園することになります。

保育を希望する場合はお子さんの認定申請を行います

お子さんの保育認定は3グループに

1号認定 教育標準時間認定

お子さんが満3歳以上で、幼稚園等での教育を希望する場合
利用先 幼稚園・認定子ども園

2号認定 満3歳以上・保育認定

お子さんが満3歳以上で、「保育の必要な理由の事由」に該当し、保育所等での保育を希望する場合
利用先 保育所・認定子ども園

3号認定 満3歳未満・保育認定

お子さんが満3歳未満で、「保育の必要な理由の事由」に該当し、保育所等での保育を希望する場合
利用先 保育所・認定子ども園・地域型保育

保育を希望する場合、「保育の必要な理由の事由」とは、以下のいずれかに該当することが必要です。

□就労□妊娠、出産□保護者の疾病・障害□同居又は長期入院している親族の介護・看護□災害復旧□求職活動□就学□虐待やDVのおそれがあること□育児休業中に、既に保育を利用している子どもがいて継続利用が必要であること□そのほか、上記に類する状態として市町村が認める場合。



お子さんの多い世帯の保育料が軽減されます

幼稚園や保育所、認定こども園などを兄弟で利用する場合、最年長の子どもから2人目は半額、3人目以降は無料になります。

● 幼稚園では、年少から小学校3年までの範囲に子どもが2人以上いる場合。第1子は全額負担、第2子は半額、第3子以降は無料。

● 保育園では、小学校就学前の範囲内に子どもが2人以上いる場合。第1子は全額負担、第2子は半額、第3子以降は無料。

* いずれの場合も、最年長の子どもが幼稚園の場合小学4年生、保育園の場合小学校に上がると範囲外となり、それまで第2子だったお子さんを第1子とカウントします。

そのほか拡充される内容は市町村により異なります

拡充を図るとされている子育て支援内容

地域子育て支援拠点

一時預かり

病児保育

ファミリー・サポート・センター

養育支援訪問

乳児全戸訪問

妊婦健康診断

放課後児童クラブ

利用者支援専門職員(仮称)

など

詳しくは

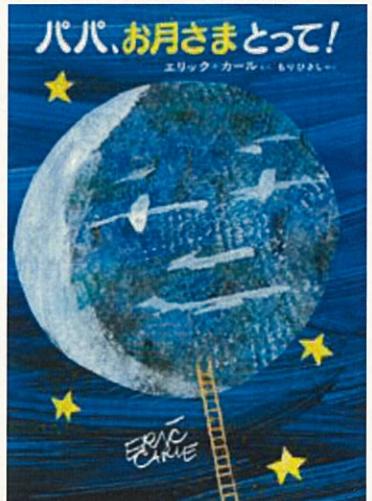
『内閣府子ども・子育て支援制度』

<http://www8.cao.go.jp/syoushi/shinseido/index.html>

保育申し込みが例年より早まる!?

認定は市町村により行われ、現在幼稚園や保育園に通っているお子さんも含めてすべてのお子さんが対象です。所属する園や、市町村から案内がある予定です。また平成27年度は初めての実施ということもあり、新たに保育園を利用する場合、利用の申し込みが例年より早くなる市町村が見られます。市町村によっては11月よりスタートしますので、広報などで確認してください。

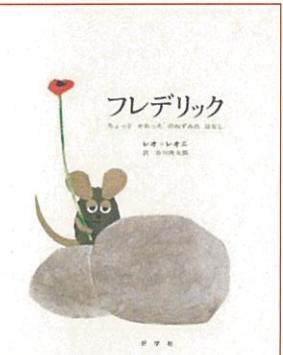
絵本の森



パパ、お月さまとって！

作:エリック・カール
訳:もりひさし
出版社:偕成社
発行:1986年12月
読んであげるなら3歳～
定価:1,600(本体価格)

娘に月をせがまれて、パパが本当に月を連れてきた！ 作者カールが実際に娘から「パパ、あのお月さまとって！」と言われた言葉で生まれた絵本。美しい鮮やかな色彩の大型の仕掛け絵本で、空の高さや月の満ち欠けを大胆に表現。ボローニア国際児童図書展・エルバ賞推薦(1987)ローラ・インガルス・ワイルダー賞(2003)を受賞した美しい作品。



フレデリック

作:レオ・レオニ
訳:谷川俊太郎
出版社:好学社
発行日:1969年
読んであげるなら5歳～
定価:1,456円(本体価格)

仲間の野ねずみが、冬に備えて食料を貯めている夏の午後、フレデリックだけは何もせず、ぼんやり過ごしていました。寒い冬がきて、みんなが凍えているとフレデリックは…。生きる上で芸術がどれほど大切か、フレデリックの表情とそのありようとともに心に残る。



おえかきしりとり

作:新井 洋行
訳:鈴木 のりたけ
出版社:岩波書店
発行日:2014年07月
読んであげるなら 4歳～
定価:1,400円(本体価格)

現在活躍中の若手絵本作家4人による、絵によるしりとり。一緒に絵を見てしりとりをするだけ…ところがなんだかわからなかったり、奇想天外な絵だったりと、盛り上がる。愉快な気持ちにしてくれる絵本。



ドリトル先生アフリカゆき

作:ヒュー・ロフティング
訳:井伏 鮎二
出版社:岩波書店
発行日:2000年6月
読んであげるなら 小学生～
定価:680(本体価格)

「沼のほとりのパドルビー」に住み、動物語を操る名医ドリトル先生。ある日アフリカのサルの国から、ひどい疫病が流行しているから救ってほしいという訴えを受けた。そこで、犬のジップたちをひきつれて冒険の航海に出発。ドリトル先生物語の記念すべき第1作目。

夏休み。子どもたちとたくさん遊びましたか。日頃ゆっくり遊べないお父さんと子どもの関係も少し密接になったのではないでしょうか。そこで今月は、パパが読む絵本という視点で、本を紹介します。

ストレスケア



「夏の疲れをやわらげる」

紅茶には身体を温める効果があり、その他にも殺菌作用、リラックス効果、疲労回復など実はとても優秀な飲み物です。レモンやミルクを入れたり、好みのフレーバーティーで香りを楽しんだりと、季節や気分によって様々にアレンジ出来るのも魅力ですね。そして、疲れが出やすいこの時期に、是非オススメしたいのは「ジンジャーハニーティー」。しょうがは、身体を芯から温め、はちみつには疲労回復の効果があります。1日10分のティータイムで自分自身の心と身体を癒し、元気に秋を満喫しましょう！



「遊びながら世界を学ぶ」

準備OK?

お子さんと一緒に遊ぶ玩具として、価格の約50%が活動資金として寄付され、世界の子どもたちのために役立てられるユニセフの玩具を紹介します。グローバルな視点を育てるユニークな知育玩具など紹介したもの以外にもあります。興味のある方は下記のHPもご覧ください。
<https://www2.unicef.or.jp/jcuApp/servlet/card.C1Card?category=4>

らくがきブック／元気

2色の水性ペンで、ページに直接書き込んで遊ぶことができるアクティビティ・ブック。遊び終わったら布などでふき取って、何度もチャレンジできます。本文は英語とフランス語。見返し部分に日本語を含む7カ国語での補足説明が付いています。4歳～。

1セット ¥2,200



ぬいぐるみ／アクティビティ・ベアー

ボタン、ジッパー・ジャケット、マジックテープ・ポケット、靴ひもやバックルを使って、着脱することで、遊びながら毎日の習慣を覚えられるユニークで可愛いベアー。1歳～。



1セット ¥2,400

パズル・キューブ／みんなの一日

12個のプラスチック製立方体を組み合わせて、学校やスポーツなど6つのテーマに沿った絵を完成させます。想像力や自分で考える力も養えます。6種類の完成図も付いています。4歳～。

1セット ¥2,500



「自治医大卒業生 女性医師支援 NEWS」では、読者の皆様からのご意見をお待ちいたしております。特集記事のテーマ、絵本やその他のコーナーについても、ご希望などあれば、是非お寄せください。

連絡先：自治医科大学 地域医療推進課 卒後指導係
E-mail : chisui@jichi.ac.jp